
何でメタモン？番外トリップ

させす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何でメタモン？番外トリップ

【Nコード】

N32360

【作者名】

させす

【あらすじ】

この小説は、某所で投稿しておりました『何でメタモン？』の番外編です。

そちらを読まなくても解る様に書くつもりです。

誤字などありますので見つけ次第報告をお願いします。

更新は、本編と共に不定期です。

現在本編もここに掲載中

登場人物（前書き）

とりあえず人物紹介です

登場人物

くわんせいじ

工藤栄治

元人間 現メタモン

神様が馬鹿をしてメタモンに、なってしまったかわいそうな青年
現在メタモンの能力をフルに使い、元ボロイ豪邸に暮らしてる
能力は、*1へんしん(10PP)のみ

弟くん(ユウト)

神様見習いなのだが

姉のエロ神のおかげでイロイロ忙しい苦労人

唯一エロ神を止める事が出来る存在

兄弟の中で末っ子

殆どの人に弟くんって呼ばれている

エロ神
リリー

全ての原因

いつもエロイ事を考えてる

トップと互角なのでタチが悪い

ユウトのみのブラコンである為頭が上がらない

他の姉妹兄弟は、全員襲い済み(ユウトを除く)

モデルとしては、機神飛翔デモンベインのアナザーブラットの深い
青の髪で金眼で服がスケスケ
名前で呼ばれることは少ない

*1へんしんについて

能力はオリジナル-10%+エイジのステータス

【1・そのキャラの常時持つてる物は一緒に変身して所持できるただし見た事ある物のみ】

『例外・所持していても袋の場合中身は空っぽ』

その所持品が意思（それに近いもの）を持つもの（ソーディアンデイルロス レイジング・ハート）』

【2・技など何の効果がわかれば構造が解らなくても使用可能。】

『例外・再構成はどうゆう構造をちゃんと理解してなければならぬ』』

【3・それ（1）を手放して変身してもそれは消えないただし持つて変身すると消える。】

『例外・高威力の兵器は修正力により所持しなくても消える』』

【4・相手の能力や技は使える。】

『その能力を使う者に変身しないと駄目そこは普通にへんしんと変わらない』』

【5・意思がないもの・神（元神も含む）・アレンジキャラクター・擬人化・幽霊（それに属するもの）などには変身できない。】

『使用すると変身することなく意識を失う』』

【例・ガンダム 女神イシター（ワルキューレの冒険） 冥王ハーデス（星矢） 神オロチ（mugen）ヘノタノリノア 黒崎一護（死神状態）朽木白夜 自縛霊】

【6・条件を満たさないキャラでアイテムの使用ができない。】
例

『仙人骨を持ち道士か仙人が無いと使えない宝具（封神演義）』』

『認証できないと発動しない道具』

【7・そのキャラの性格にならない。】

【8・そのキャラの弱点はそのまま】

（例・吸血鬼に水や日光 氷妖怪に火炎）

【9・力の調整をしないとすぐに変身が解ける】
『フルパワーで使った場合変身が解ける』

【10・PPは多分10のため変身は10回までしかし1時間休憩したら1回復する】

【12・“5”を省く高レベルな存在は時間制限付だが変身可能ただし使用するとPP全て消費され（*2）数時間変身できなくなる】

『例・八雲紫 めゝべゝ（鬼の手） 無限の魔術師など』

【13・変身した時に受けたダメージはそのまま残る】

【14・条件がそろわなければ変身しても能力は使用不可】
（ゲームに例えるとソフトがあっても本体が無い）

『長門由希の情報操作 小泉の超能力 涼宮ハルヒの閉鎖空間』

『呪文詠唱が必要な魔法 RPGなどの魔法』

【15・一部能力を使用すると変身が解け（*2）数時間変身不能】

『例・直死の魔眼 固有結界 ギアス 運命を操る程度の能力』

【16・変身中の時だけそのキャラクターの知識は見えるただし変

身を解いたら忘れる】

『召喚に必要な魔法陣 分質構造など』

*2 キャラクターや能力の使用度によって時間はランダム

異世界に行く事になりました。
(前書き)

プロローグ的何か

異世界に行く事になりました。

やあやあ初めましての人は、初めまして工藤栄治くどうえいじだよ。

俺は、ある日突然・・まあ10年ぐらい前だけどこの世界に来た異世界人なんだ。

なんで異世界に来たかって言うと・・。

俺の世界を管理している神様が突然エロ神に、襲われて（性的な意味で）作業中だった俺の住む世界を落としてしまい割れてしまったんだ。

慌てて直したけど何度やっても【俺】の部分がどうしても合わなくこのままでは、世界にも悪影響があるので、襲った奴が管理する世界（ポケモンの世界）に俺を入れたんだけど・・。

ソイツ（エロ神）が触手プレイしたいな～と思いながら入れたためか【メタモン】に、成っちゃったんだよ！！

一応元の世界には戻すという話になってるが、何時になるかは不明死んだらそれでお終いと言う条件で不老にしてもらってる・・。駄目だったら外してもらう事も出来るが・・。

まあそんな事を当時の俺は、知らなかったから大慌ていきなしメタモンに成るしポケモンの世界でトキワの森だわ最悪だぜ。

まあイロイロな事があって現在豪邸に住んでるんだが・・。

ホントいろいろあったよ

タイムスリップするしフリーザーに求婚されココ一体の主になるわで。

そうそう現在リビングでハーブティーを客に出してるところだ。

「スミマセン急なお話で」

「弟君なら歓迎するよ姉《エロ神》が付かなければ」

「ハハ・・・」

苦笑いしてる彼は、ユウト君（通称弟くん）エロ神の血縁者で一番下の弟

まだ見習い神様だけど、姉《エロ神》の原因でそこらの神様より忙しい可哀想な子

たまに暇を見つけては、チヨクチヨクコッチに来て愚痴を言ってる
実際この世界に管理してるのも彼でイロイロとフォローや物資援助
をしてくれる。

それに良い子！お兄さんこんな弟欲しいけどオプションがいらねえ。

今回は、そんな彼からの相談

「珍しいね君から相談って」

「ハイ・・・エイジさん異世界に行きませんか？」

「え？」

異世界だと・・・

「もう来てるが」

俺にとってココも異世界だぞ。

「あつ違いますここじゃない」

うゝん慌ててるな珍しい

「まあ落着いて話してくれ」

「・・・ハイ」

二時間後・・・。

話を纏めると

神様見習いは、研修の為異世界に毎年5カ月滞在しなければならいけど弟くんは、免除中だけど周りから『そろそろ良いのでわ』と言われてきた。

普通免除は無いが特例としてやってる・・・。

最初の年は、弟君も受けたけどその間に大変な事が起こった為免除になったんだ。

原因は、くだらない事に【姉《エロ神》の性欲暴走】

普段は、弟くんが居るからそんなに問題は無かったが・・・。

弟くんがかえって来た時の被害は、

邪神堕ち一步手前50人

世界崩壊寸前6個

世界混乱856個

世界恐慌7個

過労入院98762人

長期入院3人

邪神反転者5人

・・・まじ邪神より邪神だな

その事が原因で免除になったんだけど、流石に研修は受けなければいろいろ問題があり

本人も行きたがってる事で、本人の10%の能力を持った分霊でサポートが付けばOKと許可をもらい白羽の矢がたったのが俺。

何せ条件が

1、暇人（一番重要）

2、弟くんとエロ神の事を知っている

3、それなりに強い

以上

この条件にあてはまるのが俺ともう一人いたんだけど、上と本人から駄目と言われた為俺になった。

「まあ良いけど条件を付けさせて貰うよ？」

「内容によります」

「条件とは、」

- 1、能力のアップ
- 2、その世界では、不老不死
- 3、物資の支給
- 4、もしその世界で死んだ場合この世界に戻す事
- 5、ひとがた人形の製作

以上だ」

「長期の為1〜4は、可能ですが5のひとがた人形は、なんですか？」
「簡単に言くと人間」

「理由は・・・」

「ココの屋敷とポケモンの世話と管理」

「・・・貴方が帰って来た時それは、どうするんです」

「そいつの意思に、任せる」

「・・・上に話させて貰います」

「ああ頼むよ所で滞在期間はどの位だ？」

「・・・1000年ほどこの世界では10年ですが」

「・・・そんなに滞納してたのか」

「見習い期間が長いんです・・・」

「・・・断ればよかったかな？もう遅いけど

エイジとユウトはお互い明日方面を見ていた

「所で断った奴って？」

話を変えるために、エイジは断ったやつの事を聞きだした。

「あなたを除いてその方だけなんですよ・・・友達は」

「友人少ない理由はわかるが 何でソイツの事で上からも言われたんだ？」

「彼の能力です・・・」

「能力？」

「俺が破壊し滅ぼし無に帰し修正する程度の能力 直死の魔眼 だからさ」

いつの間にかユウトの隣に座ってた青年がハーブティーを飲みなら言った。

「シー君！！」

「あゝお前なら納得だ所で何時来たんだ？」

「条件辺りかな？勝手にコップ使わせてもらっぞ」

コイツは、【シラヌイ】世界（神様の世界）の意思で生まれた存在で世界の異物などを消す存在だ

異物とは許可の無い転生者やトリッパーなどの事をさす。

まあ姿は、七夜志貴の20歳バージョン

シラヌイのほうが年上だけど幼馴染だそうです。

因みに俺は許可があるから平気

「ちょうど時空管理局と言う所を消滅して帰ってきた所だ」

「リリカルかよ・・・」

「そいつらが原因で86個の世界が消えたんだされて当然だ」

「そんなにですか・・・」

「エイジお前なんか手伝ったりしたか？」

「ハア？何で俺が？」

「5人ぐらい『王の財宝』や『無限の剣製』とか居たぞ」

「心当たり無いぞ」

「じゃあ後で屑（神）を調べるか」

そう言つてシラヌイは、姿を消した。

「じゃあ僕もいったん報告の為帰らせてもらいます」

「おう！また来いよシラヌイにも伝えといてくれ」

「ハイ！シー君にも伝えときます」

その後

人形の許可をもらった俺は、必要な道具をそろえ二体作ることにした
子供と大人だ両方とも男にした。

女性だと教えられない部分があるから断念したが
肉体は、錬金術で作り 魂の定着や細かい作業は、蒼崎橙子に変身
し作りだした

1日が1年の世界で4年間教育した。

そして今日出発することになった。

「いつてらっしゃいませエイジ様」「エイジいつてらっしゃい！」

「二人とも家を任せるからな 何かあれば地下室や皆に力を借りて
くれ」

エイジは、そう言つと魔方陣が出現し光と共に消えていった。

異世界に行く事になりました。(後書き)

・・・ポケモン出てねー！！てか出ません

異世界に行くんだけど・・・邪魔だよ（前書き）

蛇足

異世界に行くんだけど・・・邪魔だよ

やあやあみんなエイジ君だよ。

え〜と俺異世界に来たんだよね？

着きそうに成った途端真っ白になったんだけど

でもなんで？真っ白い世界に目の前の爺さんと天使らしき者が土下座してるんだ？

「「本当に申し訳ございませんでした！！」」

「え〜と・・・とりあえずココ何処ですか？」

「ココは生と死の境界です」

うわ！・・・怪しい俺はあの世界ではイレギュラーだし第一管理してるヤツじゃない

「すみません電話あります？」

「え・・・電話ですか？」

「ええ少し知り合いに神様が居るのでソイツに連絡したいのですが」

「ああ・・・ソヤツは、低級神での「いいから電話よこせ！」ハッハイ！！」

コイツ・・・ユウトくんは低級じゃないぞ見習いだ！

しかも本当の管理人はお前より上だ（管理者エロ神）

エイジは、少しキレながらある所に電話を書けた

「●■□ - 2 ● × ー × ● もしもし？」

トラルルルル×2ガチャ

『ハイ近藤ですが』

「・・・スミマセン間違いました（だれ！？）」

「えーと●■□-?●×ー×●・・・もしもし」

『おや？珍しいな君から電話が来るなんて』

「（繋がったよ）君の仕事に巻き込まれたからだよ・・・あとユウトを馬鹿にした」

『・・・今何処だい？』

「行く世界の生と死の境界辺り」

『あそこか今すぐ向かうよ』

10秒後

シラヌイは偽神の後ろから現れたが顔が営業スマイルに成っていた。

「やあ！君達かい？違法な転生をさせてるヤツは」

「早いな（そんでもってキレてるな）」

「きつキサマは！！」

「ヒイツ！！」

シラヌイを見た途端怯えだした偽神と天使

「許可の無い転生させた者は知ってるね・・・じゃあバイバイ」
そう言つてシラヌイが指を鳴らすと二人は消えていった

「災難だったな転移途中だったんだろ？」

「ああ・・・悪いがユウトくんを呼べないか？」

「そのまま転移すればいいんじゃないのか？」

「渡されたのは、一回ぼっきりの召喚紙だからもう使えない」

「じゃあ俺が連れて行つてやる」

「場所わかるのか？」

「ああ研修でも許可が必要だからな」

「・・・そうなんだ」

「因みに最初は君の世界にある漫画の世界だ」

「どんな世界だよ」

「確か・・・『ワンピース』に似た世界だったな」

あれ？今なんか引つかかるな

「マジかよって・・・最初？」

「あれ？聞いてなかったかい？何回か転移するんだってよ」

「聞いてないよ!!」

「・・・珍しいなユウトが言わないなんてってもう着いたぞ」

さてどっかの島に着いたのだが何この目の前の小人（身長10センチ）

「エイジさん！シー君も一緒なんて何かあったのですか!？」

「シラヌイの仕事に巻き込まれたんだ」

「やあユウトずいぶん可愛くなったな！持ち帰って良いかい？」

「駄目です（即答） 無事なら良いですそれから僕は分霊ですから・・・能力は、問題無いのですが体を小さくしないと一般人以下の力しか使えないのです」

そういつてユウトは俺の肩に飛び乗った

「これからよろしく願いしますエイジさん」

「オウ」

「さて俺は、戻るか・・・」

「悪いな呼び出して」

「かまわん俺の仕事だからな」

そういつてシラヌイは消えていった。

異世界に行くんだけど・・・邪魔だよ（後書き）

うん蛇足だね消すか不明

とりあえず目的と準備（前書き）

・・・書きかけ消えてへこみました。

とりあえず目的と準備

やあやあみんなエイジ君だよ！

さてさてようやく異世界に着いたけど・・・。

「何すればいい？」

『この木を守って欲しいのです』

「この木？」

ユウトが指を刺したのは、俺（人間時）と同じぐらいの大きさの木だった。

「この木は、この世界の負を吸って無に帰す通称 ユウドラシル 世界樹この世界で唯一最後の」

「最後？」

「他にも在りましたがこの木が最後です・・・この木が無くなればこの星は、災いに見舞われます」

「なんで他のやつが無くなったんだ？」

「世界樹は、丈夫で腐りにくく船などの材料に適してます」

「それで世界樹を刈りまくってこれが最後になったのか」

「ハイ・・・普通は守護者を生み出すのですがこの木はまだ若いのでその力が無いんです」

「（レディアントかよ）・・・そうそうユウトこの島に動物はいるか？」

「いません」

「そうか・・・」

「どうするんです？」

「これを使う」

エイジは、事前に持って来てもらった リュック（四次元ポケット付き）から、あるアイテムを取り出した。

「これは・・・前に頼んでた」

「そう動物遺伝子アンプルと クローニングエッグそれと神話生物+UMA大百科に動物大百科」

動物遺伝子アンプルと クローニングエッグ（登場作品映画ドラえもん のびたの日本誕生）

動物の遺伝子が入ってるアンプルをクローニングエッグに入れるとその動物が生まれてくる二十二世紀のアイテム

映画ではこれでペガサス グリフォン ドラゴンを作った。

「これで何を作るんです？」

「流石に一人じゃ守るのは、きついからね」

『具体的に何作るんですか？』

「その為の神話生物 UMA 妖怪大百科えーと・・・」

五十分後

「馬+白鳥」ペガサス

ライオン+ワシ」グリフォン

鹿+ワニ+コウモリ」東洋竜

ライオン+ヤギ+mammoth」キメラ

ライオン+サソリ」マルコティア

鷲+馬」ヒュポグリフ

ハブ+鷹」ケツアルコアトル

馬+カンガルー+蝙蝠」ジャージードビル

蝙蝠＋猫 ≡ 蝙蝠猫

白馬＋シロサイ＋イツカク≡ユニコーン

牛＋狼＋ライオン≡ジエヴォーダンの獣

(アミメニシキヘビ＋オオアナコンダ)×4≡ヤマタノオロチ

ベルチャールウミヘビ＋ブラックマンバ＋タイガースネーク＋キン
グゴブラ＋アマガサヘビ＋タイパン＋ヒガシダイヤガラガラヘビ≡
ヒドラ

でいいかな？」

エイジは、エッグにアンブルを注入しながら何を作るか言っていた。

『なんか僕達の世界にも居る生物も混じってるんですが・・・』

「大丈夫基本ペット用だから飼い主には襲わないよ・・・多分、それにちゃんと出来るかどうか判らないし」

「・・・ヒドラとマルコティアは危険じゃないでしょうか？」

「人除けだもんその位なくっちゃココの世界唯でさえデタラメ人間が居るんだよ？」

「え・・・そうなんですか？」

「地震起こしたり全身刃物だったり砂だったり」

「・・・エイジの方がデタラメでは？」

「ポケモンの規模が違つよ砂人間なんか相手の水分奪うんだよ？」

その後ナンダカンダ言つて上手く丸め込まれました。

「さてとりあえずユウトは、今の状態でどのぐらいの結界張れる？」

「種類によりますけど・・・」

「対虫対人対獣避け結界3日連続ぐらいで」

「それなら3mが限界です」

「ならそれで世界樹を端っこで張って そくにテント建てて今日は寝るから明日家を作るし」

翌日

リュックから携帯食を食べたエイジは、早速作業を開始した。
まずユウトに世界樹にだけ強力な結界を張ってもらい
ピオランテ（ゴジラ）に変身し世界樹の周り（半径100m）を地
ならして更地にした。

エドワードエリック（鋼の錬金術師）に変身後世界樹を中心に山を
作り

風見幽香（東方Project）で持ってきた花の種を蒔き能力で
咲かせ

ティトレイ（ティルズオブリバー）で山に芝などを生やした

「疲れた・・・相変わらず不味いなこれ」（PPリカバー服用中）

『お疲れ様です・・・あつという間に山が出来ましたね』

「ああ・・・とりあえずユウトは、このやまを豪雨時守るよう結界張
つてくれ、根が完全に行き渡っていないから豪雨時に崩れやすいから」

「わかりましたその位なら大丈夫です」

「駄目なら俺がやるから無理するなよ？」

「ハイ！」

一時間後・・・。

さて休憩も終わった事だし

リュックから『さすと雨が降る傘』（ドラえもん秘密道具）出し山
の下に適当に刺しユウトの能力で固定化させた。

そこを初めとし、比那名居 天子（東方Project）に変身し
適当に大地を操り川を作った。

・・・山の時やればよかったか？まあいい

続けて家だがビックライトで大きくしたミニチュアハウス（中はユ

ウト君の能力により質量の法則無視）を出し
後はノビール水道管 ノビール下水管 ノビールガスパ管をつけて家具もだして・・・ホント便利なドラえもん道具
あと電気は、屋根にソーラー発電を付けたからいいか何かあったら電気ポケモンに変身すればいいし念のため非常用自家用発電機もあるし

さてそろそろ卵が孵るはずだけど・・・お？動き出した！
パカ！

「キシヤー」『ミヤ・』『ぎやニヤー』

うん全員一応上手く出来たけどカオスだね！

「無事生まれてきてよかった・・・さあこれをお食べ」

エイジは万能ペットフードグルメン（ドラえもん）を動物達に与えた。

「一部小さいからまだ可愛いな・・・」

『・・・』

「うんユウト君は（カン！）つつ！？」

エイジが言おうとした瞬間後ろから手紙付弓矢が飛んできた

『姉さんからの手紙かな？矢が姉さんの使ってるモノだし』

・・・顔面ギリギリに当りそうだったのに無視ですか？

とりあえずエイジは手紙を見たが内容に呆れた。

『私のユウトは可愛い私のユウトは可愛い・・・手を出したら殺す』（エロ神）

『僕のユウトに手を出したら消すよ』（シラヌイ）

「・・・あの変体共」

『なんて書いてあったんですか？』

「怪我しないようにだって」

『心配性だな姉さん僕一応分霊なんだよ』

いいじゃない心配してくれるだけでも・・・。

16年経っけどってアレ？（前書き）

携帯初投稿

16年経つけどってアレ？

ヤッホーエイジだよ！

みんな元気？

なんか長年経つけど……… 人来ないね！

最初の2、3年は、皆の世話で大変だったけどさすがに、今は暇だからいろんな物を作ったよ。

開封するまで半永久保存する袋（ジップロック付き）

物理的法則無視の水筒（約4人家族6年分）

零れても無くならない杓（半永久的に水が飲める）

ドラえものの四次元ポケット量産（平均一日三個×16年）

東方全キャラ人形

二次元作品魔法の知識を纏めた辞書（弟君に没収）

連続60層の時の部屋…滞在時間がバラバラだからマスターキーが無いと最下層から戻る時100年かかる現実だと一時間だけど

いろんな漫画に出て来た料理のレシピ本も作ったな…材料や道具は、変身や弟君に頼んだけど

いや〜やつぱり暇だ……。

そこに空からペガサスが降りてきてエイジに何かジェスチャーしている。

見張りのペガサスだね何々…「船・来る・警戒」

フム…

「大至急全域に知らせ各自臨戦態勢グリフォンは上空から見えないよう監視弟君に木の結界を強固にするよう伝えポケット海を持つてくる！」

さて…どうなる事やら。

海岸

とりあえずノーマルで出たがあの船は、…海軍だね。

海軍 side

最悪だ、航海中に嵐にあい海王獣に襲われなんとか船は無事だが、怪我人が多く 薬も切れかかり食糧も少なくなとうとう医者も倒れた、仕方なく船を留め比較的に軽傷者に近くの島に向かってもらい事になった。

エイジ side

小船がこつちにきたな

お？こつちに気づいたな

「この島の者ですか？」

「ああそうだが？何用ですか？」

「すまない医者は、いないか！？」

「この島には、人間は俺だけだ（人とは、言い難いけどな）」

「そんな…」

「訳を話せ内容によっては、力になろう」

海兵は、これまでの事を話した。

「成る程わかった多少だが力になろう」

エイジは、口笛を吹きペガサスと竜（東洋竜）を一匹づつ呼んだ。竜を見た瞬間海兵達は、緊張がはした。

「安心しろ俺の子供達だ…ペガサ（ペガサスの名前）家からボケ薬食道を持ってきてくれそれとあいつに連絡してくれ」

エイジがそう伝えるとペガサスは、頷き家に向かった。

「竜牙（竜の名前）悪いがあの船に向かってくれないか？」

竜牙は、頷いたので混乱気味の海兵達を無理矢理乗せ海軍の船に向かった。

海軍 side

…仲間が戻ってきた、島の人間と一緒に竜に乗って

竜は男が降りたらすぐに飛んで行った。

男は、直ぐに行動にでた。

比較的に軽傷者を集めたすると男が金髪の女になり何かを唱えたすると足元が光だし兵達の傷が治りだした。

驚いてるのもつかの間直ぐに手足の骨折者に添え木をさせ集めるよう指示をだし同じように治した。

一通り終わったら今度は若い男に変わり今度は重傷者を治療し始めた。

エイジ side

着いてみたら想像以上に酷かった。

周りは、驚いてるが無視一緒に乗ってきた兵士に、重傷者を除く負傷者を集めるように伝え、さっさとミント（テイルズオブファンタジア）に変身し『リザレクション』を唱え治し、その治した兵達を使い 軽い骨折者も『リザレクション』で治した。

他に重傷者がいる事と手術室が有る事を聞いたので真東輝（ゴットハンド輝）に変身し治療を始めた。

本当は、ブラック・ジャックが良いのだが今回は真東輝にした。だってこのキャラ自分の患者は絶対死なないんだぞ！ある意味チート医者だろ。

3時間後弟君の援護もあつて（死なれると困る人物が居たそうで）早く終わった。

予め持ってた栄養剤を飲んで部屋から出るとペガサが降りてきた。どうやらずっと待ってたらしい。

荷物を受け取り警戒解除正しい要監視を伝え帰らせた。

そこに、一人の海兵がやって来た

「この度は、真に有難うございます！海軍一同感謝します！」

「いえ、困った時はお互い様ですし」

「真に申し訳ないのですが、貴方様はいつたい何者ですか？」

「俺は、エイジ クドウあの島の守り人兼ある木の守護者（仮）で悪魔の実を食べたモノマネ人間だ（嘘だけど）」

「島の守り人ですか？」

「元々俺の実家が神を奉る所でその神のお告げでこの島のある木を守りよう言われたんだ。」

「その木とは？なんですか」

「……この世の負を浄化する木」

「負を浄化する木ですか？」

「昔は沢山あつただけけどその木が船に使うのが最適でそれが解つたとたんだんだんへっていき大海賊時代になって俺が守ってる木以外全滅」

「……その木が無くなればどうなるんですか」

「……もし無くなったらこの世界（星）が壊れる（そうなる前に破壊するけどな）」

「そんな冗談」上層部に樹木人戦争と聞けば解るよ」「

16年経つけどってアレ？（後書き）

現在パソコンが使用出来ない環境で某サイト投稿していました本編はこっちに移す予定です。

ですがリアル多忙の為不定期更新は確定です。

樹木人戦争（前書き）

微妙にネタ入り過去9割話です。

樹木人戦争

エイジがこの世界に、来て一ヶ月経った頃の話し。

「なあユウト質問なんだがなんで世界樹がなんでコレを残して絶滅したんだ？」

『話したはずですが船に使われるため「いやそれは、聞いただが疑問に思う事があるんだ」…なんですか？』

「世界樹には、守護者が居るんだろ？この木は若いが他の樹は違うだろ？」

『……確かに居ましたが三割は、その事をしらず島にも居ませんでした…それに』

「それに？」

『守護者は、世界樹そのものソレを伐られたらそのままダメージを受けます彼等は、対抗したのですがそんな事もあって絶滅しました。』

『

「じゃあこの木は？」

『最初の世界樹の最後の子です後100年位すれば』

「へー最初の世界樹の子供か」

『彼がいなければこの星は消えるだけででしたから』

「彼？」

『この木と世界を守った守護者蛙 緑のケロル』

「……………え？蛙？」

『なぜかその樹のみ守護者が蛙のコスプレをしているんです』

「その樹の守護者って赤のギロン 紺のタマダ 水色のドロス 黄

色のクルドなんて……」

『いましたよ？なんで知っているんですか？』

「いや偶然だよ」

言えないまさか、テイルズとケロロ軍曹だなんてこんなシリアス中になんて

『この戦いは歴史上なかった事になっていす……バカな人間ケロルが居なければ滅んでいたのに』

ちよと！黒いよユウトくん！！

「ゆつユウト君そういえばここの管理人ってだれ」

『今は、この星担当は僕です』

「じゃあ前の管理人は、サボっていたんだね」

『ハイ前任の者は違法転生者で楽しみ仕事を疎かにして消されました』

「それでこの事が判って今に至るってなわけか…あれ話によるとケロルって」

『彼は自ら世界樹の役割をしてこの木を守りながら消えていきました』

「…守護者ってそんな事も出来たの？」

『普通は、できません最初の樹だから出来た行為だと思います』

「自らね……その戦争って海軍も関わっていたの」

『ハイこの戦い通称樹木人戦争に海軍が関わっていました』

現在

「さてこの船の応急修理をしますか」

エイジはエドワード・エルリックに変身し錬金術を使いだした。

本当はフランキーに変身しようとしたが世界が世界な為やめた。

「食料と薬は、この位有れば町まで足りるだろう」

「食糧や薬までホントに無償でいいのですか？」

「この島の住人は俺だけですしここは、食糧が豊富なので大丈夫です。それから水は、大丈夫ですか？」

「それが…海水から水に代える機械が壊れてしまつて」

「でわコレをあげます」

エイジは、ポケット道から水筒を渡した。

「えつとこれは？」

「水が入っている水筒です」

「……エイジさんさすがにふざけてませんか？」

海軍が怒るのも無理は無い エイジがポケットから取り出したのは普通の水筒だったからだ

「この中には、四人家族6年分入っていますから」

「そんな馬鹿な」

「では、試しに」

エイジは、水筒の蓋を明け水を海に捨てた。

しかし5分たつても水の流れは、変わらなかった。

「これを5本計131400リットルはいつています」

「あひつとそい#もひ...」
「.....ちーとね」

樹木人戦争（後書き）

上手く内容書けていないよう。

ハア？何言ってるの？（前書き）

……できるなら文才が欲しいです

「ハア？何言ってるの？」

あれから海軍を帰して一ヶ月今度は、海軍の大總統が来ました。

「私は、マーカス大總統と申すこの度我が軍を助けてもらいまことに感謝する」

「エイジ クドウです、困った時はお互い様ですが何故大總統様がこんな所まで来たのですか？」

「あの船には、せがれが乗っていて一人の父としても来ている」

「まあ！そうですか」

「それでエイジ君海軍に興味ないかい？」

「ないです！」（きっぱり即答）

「そうか…君なら「お断りします」」

海軍に入るわけないだろバーカ

「要件は、それだけですか？」

「フム…樹木人戦争は、誰から聞いたか教えてくれるか？あれは、歴史上なかったのでは」

「家の崇拜してる神様です」

「嘘は『嘘では、ありませんよ』誰だ！」

ヒョッコリ俺の肩の上から出て来たユウト

『初めましてマーカス・マルン・ゲルータこの地を管理してる神の一柱ユウトです』

「……………随分小さい神だな」

『彼のサポートのために力を抑え降りて来ているので』

「でわ神に申す世界樹を譲ってくれ」

マーカスの突如の発言に二人は、耳を疑った。

「…ハア？何言ってるの？『理由は？』ユウ！」

エイジがユウトに声かけようとしたが彼はキレかけていたのを見て諦めた。

「世界会議にて研究開発と保護のため」

「木はまだ若くて脆い量産も疎か貴方達の技術力では、16億年たつても代理品も作る事は不可能です！！」

「だが現に災いは、起きてないでわないかもしれないがしたら他にもまだ」
「貴方達は自分達がした事を忘れたというのですか！」

これ以上続くのは、意味ないと感じたエイジは、行動に出ることにした。

「大總統この島から本部に戻るまでの位がかかります？」

「公務もあるので一ヶ月位係るが？」

「では、その一ヶ月後にまた来て下さい」

「なぜかね？」

「答えしだいですが一ヶ月だけ世界樹をこの世界から切り離します
その後どうなるか見てもらい為です」

「それは、脅しかね？」

「いいえアナタ達がしようとしてる事を教えるためです。なおこの
場で俺を殺した場合世界樹も消えます。それでも一応樹木人だね」

「……………解ったしかし少し延長してくれぬか世界会議に提出するの
でな」

「では、3ヶ月後に会いましょう」

エイジは、一方的に伝えた後島に居た全ての人間を来た船に戻した。
そすて島の周り全体は、深い霧に包まれ行くてを拒むよう突如出現した。

エイジ side

「ユウトくんこれから当分島の周り全体に人避けの結界を張って」

『わかりました…エイジ』

「答えしだいだと負のみ入れる結界を使うことになる…その時は、サポートを頼みたい」

『いいですがサポートは、何をすれば』

「まずこの島全体と世界の境界を一ヶ月間ズラす その後この世界の余分な負を集めるからその時の能力補助」

マークス大總統 side

まずい事になった

初めは行方不明になった息子が見つかり我ながら喜んだ。

その時にあの戦争の言葉を聞いた時耳を疑った。

ワシがまだ新兵だった時に起きたのだからな

あの事は歴史上なかった事になっている

船を造るために島を滅ぼしたなどクダラナイ理由だ。

渡された葉は、あの樹の葉である事も判り世界会議でも報告された。

決まったのは、保護という名の研究

そしてその島の住人の生き残りらしき青年と怪しいが神に会いに行くことが出来た。

樹の話しになったとたんユウトといい神が怒りをあらわにしていた。

なんとかして平和的に解決したかったが無理だった。

さてこの事を聞いた世界は、どう動くか

ハア？何言ってるの？（後書き）

裏設定？

帰した海軍は、因幡てゐの幸運で無事帰還

マーカス総統は、実はケロルの友人で彼を逃がした張本人。

ちなみに現在は、原作106年前です。

大異変（前書き）

時期的に余り良くない表現があります。
ので短めで投稿しました。

大異変

あれから5ヶ月…俺は、能力長期使用のため体は眠り続けてる。

簡単に言おう『交渉は決裂した』

最初は、平和的に話し合いとく思ったが世界会議の使者に撃たれた。

ええ…頭をね。

その時俺は、結界を張るためにと嘘をつき頭屋（トーヤ 屍姫アニメ版）に変身して無事だった（撃たれたのは偽物の頭のため）そのまま死んだふりをしながら会話を聞くとどうやら海軍は、聞いてないそうでマーカスさんが怒ってた。

結界が解けたらユウト君もて実験すると話してた。

俺は使者の護衛に引き連られていた。

海に捨てるために

運ばれている中で、何人が知ってる海兵が死んだ俺みて怒りを表してた。

当然俺もただで死んだ振りをしてる訳にもいかない、捨てられる前に能力の呪いのろ『幸の死』を与えてやった、当然撃った使者にも。

その後変身を解き死んだ振りを謝罪し『残念ですが交渉決裂した』

この海域から速く逃げるようにと伝え海に飛び込んだ。

海に飛び込んだ後魚に変身し30分後バトラ幼虫ゴジラに変身し船を襲いはじめた。

まあ乗船前に『因幡てゐ』に変身し『海軍だけ無事に帰れる程度の幸運』を与えたから無事だろう。

マーカスさんの船を襲わないよう適当に暴れ数隻沈め撤退させた。

船が消えた後俺は、島に戻りユウト君の力を借り八雲 紫（東方Project）の『境界を操る程度』の能力を使い島全体を世界との境界をずらせ負しか入らないようにした。

その三日後世界の異変が始まった。

水が豊かな島は、水が涸れ代わりに毒水が湧き。

作物が豊かな島は、害虫の異常発生・新たな穀物病・異常な天候不順がおき

砂漠では連日の豪雨

海王類や多くの動物達は、暴れだし国を襲った。

多くの休火山は、一斉に活動し幾つかの町は消えた。

そしてあちこちの国で（時期的に厳しいので自粛）により壊滅的被害が起きた。

そして新たな伝染病が世界に蔓延し。

海は荒れ続けてる。

『エイジさん…まもなく時間です起こしますよ』

ああ頼むよ体は眠っているけど意識は起きてるからね。
『わざわざ意識を起こさなくても…』

自己満足だけど自分でした事をちゃんと見なきゃ…。

『エイジさんはそれで一度壊れかけたじゃないですか！』
その時は、覚悟が足らなかつたんだよ。

さて起きるか……。

大異変（後書き）

『一度壊れかけた』

番外編時のエイジはある理由で人やポケモンを殺しています。
本編の大分先の話です。

時期がきたら書き直します。

建国？します！宣言いいえ脅迫です

目が覚めて最初に行ったのは、島と世界の境界を戻し溜め込んだ『浄化された負』を解放した。

負も毒だが実は『浄化された負』も毒なのだ。

簡単に言えば食物連鎖が起きない。

聞こえは、良さそうだが

食べない・増えない・減るだけ

多過ぎだと欲が無くなるなんて怖いね。

さてと世界会議始まつてるな？

マーカスSide

全く馬鹿をしたものだ、あの時海に落ちたエイジ君の姿は無かった代わりに怪物が現れた。

彼が逃げるように、言ってたのは奴の事だったのだろう…。

奴は、大砲や悪魔の実の能力も効かなかず数隻やつの攻撃で沈没したが、不思議な事に海軍の怪我人が誰もいなかったのだ。

海に落ちた能力者もだ…多分以前彼が使ったとされるウサ耳少女の能力だろう。

怪物がいなくなった後島を偵察しに行ったが…島が無くなっていた
最初から無かったように。

その後彼やケロルが言った通り世界が荒れた。

そしてその事による責任のなすり合いをする世界各国の代表共。

うん？…なんだとあの島が戻ってきただと！

S i d e E n d

エイジ（八雲 紫に変身中）S i d e

あーあやっぱり責任のなすり合いしてるよ。

エイジは、頃合いを見て会議席全体が見渡せる場所にスキマ出して
出た

「初めまして世界各国の代表者達」

「誰だ貴様！何処から入って来た」

突然の来訪者に代表者達は、慌てですがエイジは、無視し話を進め
た。

「私は、ユカリ 神隠しの魔女・島の賢者・神ユウトの巫女・そしてアナタ達が殺しかけた我が弟エイジの姉よ」（嘘）

「エイジ殿の姉上か…」

「弟から聞いていたわ…探してくれてありがとう」
船から落ちた時救助しようとしたのを魚の時見てたからな。

「さて世界各国の代表に聞くわ どうだったかしら？アナタ達がした事」

「貴様が今回の原因か！」

「原因？失礼するわね原因を作ったのは、貴方達よ？せっかく話し合いで済むモノに銃を撃ったのは、誰？アナタ達よ！ 弟が撃たれた時ユウト神は、かなり怒り狂ったわ（本当に）しかも弟やユウト神を実験材料にしようとした！
そんな事をした貴方達の為にわざわざ島を戻してあげた逆に感謝しない」

「して…なにしに来た」

「簡単な要求よ世界樹に二度と近づくなそれと中立国として認めてもらおうかしら？」

「国だと？そんなの認めるか！！」

「別に国じゃなくてもいいわ場所として」

「ユカリ殿」

「何かしら？海軍のマークス總統」

「あの島に海軍支部を置く事は、可能か？」

「ええ可能よ…島の陸上に住むモノ達に危害を及ぼさなければね、建てる場所はこちらで指定されるけど良いかしら？」

「マーカス總統!!」

「ワシはいつこうに構わん元々おぬしらが海軍に内緒して武力で解決しようとした事が原因じゃろ?」

「まあ認めるまで帰しませんけどね」

「なつなにをするんだ?」

「家の家訓でやられたら何倍にして返せという素晴らしい家訓があるのよ?」

結局島を中立国にしてもらいましたよ

スキマツアーin上空! 所属国トップ親戚一同家族全員(12歳以下の子供及び妊婦を除く)による紐無しバンジー無限落下をしてね

マーカスを除くトップ達達は、グツタリしていたがエイジは、全く気にせずに話を進めた。

『じゃあこの契約を破った場合その国を滅殺します、それでよろしく』

ちなみに契約内容は

- 1・島に武力的介入を禁止
- 2・海賊は島で悪さをしない限り陸上では捕まえない
- 3・島にいる生物達に危害を加えない
- 4・契約を破った場合死をもって償わせる
- 5・世界樹に関わる事を必ず報告する事

- 6・世界樹を無許可に実験・採取などをしない
- 7・世界樹を傷つけない。などなど

『そうそう最後に忘れてたわ』

そう言つてエイジは各国代表の頭の上に金たらいを落とした。
(マ
ーカスも含む)

『これで弟の分はちやらよ』
そう言つてエイジは、スキマに入り消えた。

次の日

何処かの国が攻めてきたので消えてもらいます。
でもね優しいからルーレットで選ばせてあげる。

核融合(霊烏路 空)

メテオ(F Fオメガウエポン)

スペシウム光線ウルトラマン

ゴジラ
放射能火炎

ハルマゲドン(アンゴル・モア)

ギョツとしてドカーン！(フランドール・スカーレット)

ビックバン(アーチェ)

カメハメ波(孫悟空)

ボボボ・ボ・ボーボボ
鼻毛真拳

濃硫酸ミスト(ヘドラ)

ストライクバスター(グリーンモスラ)

グラビティーブラスト(機動戦艦ナデシコ)

エクスカリバー(セイバー)

ゲイボルク(ランサー)

X・BATH TUB(KOSMOS)

プク・プク・ポン！(ホリ・タイゾウ)

無限1Up金タライ版^{マリオ}

ジーノカッター（ジーノ）

ベームベーム（ククリ）

ギガティン（DQ）

アルテマ（FF）

北斗真拳^{ケンシロウ}

多次元マント（アスタロト）

煉獄の七杭+四つ子の塔^{ベアトリーチェ}

スーパーノウア（セフィロス）

テイルズ全シリーズのサツゲキブソウケンレールガン（トレイン）

食いしばれ！（人修羅）

超音波レーザーメス（ギャオス）

チセの火^{チセ}

13連釘パンチ（トリコ）

超振動^{ルーク}

直死の魔眼（両義式）

魔界落とし（アスタロト）

全部のどれかを

優しいでしょ？被害が少しで済むのも有るんだから。

さてと次の仕事を始めないと。

建国？します！宣言いいえ脅迫です（後書き）

書き直すかも

誤字脱字がありましたら報告お願いします。

事後処理

さて前回のルーレットの結果無限1UP金タライになりましたので襲った国の王様には、5秒ごとに金タライが常に落ちくる効果だったんだけど

余り効果が無かったので…ツチ

痒いけど手が届かない呪い

何処からともなく暴走アシカが突進してくる呪い

毎晩裸で『びっくりするほどユートピア』をする呪い

姿が葉っぱ隊に見える呪い

を国内全員にユウト君が呪いをかけました。

うん2日で降伏してきたよ！

俺も即降伏するよ。

さて過剰な負を集めますか…。

エイジは、負を溜める棺を用意し東方Projectの鍵山かぎやま 雛ひなに
変身し厄を溜めはじめた。

厄も一種の負なのでユウトの力も使いその余分な負を棺に集めた。

『流石に世界中の余分な部分でも凄い威力です…』

『いろんなオカルト的術を集めて作った棺から漏れるなんて想像以上だな』

『少し結界を強めます』

『たのむ…少し吐きそう』

『吐いた方が良いですよ…この状態で地下に埋めます』

ユウトは、結界を張ったまま棺を世界樹の地下に埋め祠を建てた。

『当分忌み地に成らないよう気を使っな』

「棺の負が消えるに何年ぐらいかかる？」（吐いて楽になった）

『ざっと見積もって今の状態で30年ぐらい』

「たった一ヶ月でそんなにか……」

エイジは少し後ろめたさを感じた

『まだこの木が若いので大きくなりますから実際30年も係りませ
ん』

それから数日俺は、寝込んだ…。

原因は、負のあたりすぎ一応浄化作用の薬を飲んだのだが余り効果が無かった。

しかも所持してた呪い避けの道具全部真っ黒に壊れていたのである
念のため近くに住んでいた動物達には、結構離れてる場所に移動し
てもらったので被害は、祠の周りの植物が枯れた程度だ。

ようやく全快になった次の日海軍が来た。

例の海軍支部の建設だろう場所は、最初にあった海岸に建設させる
予定だ。

海岸に向かうと海軍がこっちに向かった

「エイジ君無事だったか！」

「え？…マーカスさんなぜ貴方がここに？」

「ああ君の姉君や神ユウトの謝罪と君の様子を見にね」

「わざわざすみません…姉は、今スキマの中で眠りについて会えません（嘘）ユウト君は、今儀式中なので会うことができません」

「そうか…所で儀式とは？」

「この前溜まつ負を集めて一力所に留めたんですよその結界の補強と調整です」

たった3日でヒビなんてどんだけ強力なんだよ負。

「溜めた負とは…」

「地中に埋めたので見れませんよ？」

「…そうか」

「見ない方が良いですよ数日寝込みましたから」

「ではユカリ殿も…」

「いいえ姉は、基本スキマの中ですよごしてます」

立ち話を続きそうなのを空気を読んだ海兵が話を割ってきた。

「あの…マーカス大総統」

「お…スマヌ エイジ殿海軍支部は、何処に建てて良いのだ？」

「あの入江の右端っこを中心に…所で大きさは、どのくらいですか？」

エイジは、地図を取出し海兵に見せた。

「あっはい！このぐらいの大きさになります！」

「うーん問題は無いけど一応注意事項だけ………面倒臭いから呼

ぶか」

エイジが口笛を吹くと森から大量の動物？達が出てきた。

その光景を見た海軍は、臨戦体制をとったがエイジは素知らぬ顔で動物？達に近づいた。

「久しぶりだなみんな元気だったかい？」

「エイジ殿これらの生物はいつたい？」

「この島に住んでる動物達ですみんな俺の家族で今いるのがそのリーダー達です」

エイジは、地図を見せ話をしだした。

「ここなんだけど……うんケロベロスとヒドラの縄張り近くだけど誰もいないの？食べ物？…問題無いね」

「建設かんしては問題ありません」

「そうですね…しかし資材を運ぶ時にあの時に現れた怪物が」

「ああ…バトラですか」（やべ…忘れてた）

「バトラとは、あの巨大な角を持った怪物ですか」

「あれは、姉さんのペットで基本スキマの中にいますから大丈夫ですよ？あの時は、姉もキレてましたから…」

「それであの仕打ちか…」

マーカスは、あの紐無しバンジーの事を思い出していた。

「アハハ…すいません姉の辞書に容赦の文字は、ありませんから」（まあわざとだけど）

事後処理（後書き）

ちよこつと補足

棺：エイジが作ったあらゆる漫画やゲームの魔法と技術で作った負を溜め少しずつ出るように作ったアイテム。

負を溜めた棺……一カ所に集まった負なので濃度が濃く強力な結界を張らないと近くにある見るだけで即死する

短い再会

建国？して数ヶ月無事海軍基地も完成した

まあトラブルは、あったけどそれは、別の話し

そんなある日ユウト君からこんな事を頼まれた。

「幽霊と話せるように出来ないか？」

『ハイ実は、世界樹にここまで連れてきたケロルの魂がありまして
…どうしても話したい相手がいるそうで』

「フーン誰？」

『それがマークスさんなのです！』

「…………ハア？」

ユウト君の説明によるとケロルとマークスさんは、同じ島の出身で
子供の頃からの友人で樹木人戦争の時匿い逃がしたとの事か。

「ウーン…一応出来ると思うけどユウト君？ケロルってどんな姿を
してるの？」

『今頭に映像を送ります』

享年23歳 ソフトモヒカンの緑髪青年 腹ね右に小さい星型
の痣

基本ケロロ軍曹の着ぐるみを着ている。

…何処の擬人化ですか？

「ケロルの魂ってどの位丈夫なの？」

『話せるとしたら3日間が限度です』

「3日間か…それなら…うんユウト君力を貸してね！」

『え？何するんですか？』

「それはね……………」

2ヶ月後

全くエイジ君は、いきなし現れ有給休暇取って一人で島に來いって全くなんのようじゃ！

「うんもう少しじゃな……………！」

マーカスは、エイジが住んでる家の前に居た人物に驚いた。

『マーカス殿お久しぶりであります！見ないうちに大分老けましたな』

それは、あの時別れた友人の姿であつた

「ケツケロル！！生きていたのか！…そんなまさかエイジ君の変身か！？」

『今回はエイジ殿を借りてますがユウト殿のお力で3日間のみですが話せる事が出来たのであります！』

「そうか…ケロルすまない！」

『何を謝っておるのですか？』

「まさかあんな事になるなんて知らなかったんだ！」

『マーカス殿あの事は、もういいのであります』

「しかし！」

『当時マーカス殿は、一兵卒でありながら我輩を匿い助けてくれたではありませんか！ お陰で我輩は、この島につき種を守る事が出来たのであります』

「……」

『……マーカス殿覚えておりましたか？我輩達が始めて会った事を』

「ああ覚えている」

『マーカス殿は、森に迷い母上の所で泣いておりましたな』

「その時ケロルが上から落ちて来たんだよな」

『そっそうでありましたか？』

「頭から地面に刺さった状態でわしは、驚いたぞ」

『ケロル、恥ずかしいであります！』

『そうだマーカス殿キャンプの時マタノ実を間違えてカヲト実を食べた事覚えておりますか？』

「ああ覚えておる あの後ケロルがミルクを飲ませてくれたのも」

それから二人は、あの時に戻っていたような感じだった。

そして最後の日

『ケロル、今日が最後でありますか』

「ケロル……ユウト神に言っただけでなんとかならないか？」

『無理であります……最初は、ユウト様も何とかしようとしたのだが、我輩の魂が殆ど消えかけていたのをなんとか集めるのが精一杯だっ

たのであるます』

『それにこの体は、エイジ殿のモノであります…ちゃんと返さないとイケないのであります』

「そうか……ケロル」

「なんでありますか？」

「楽しかったぞ」

「我輩もであります……マークス殿」

ケロルは、結晶のカケラが入った小ビンをマークスに渡した。

「これは？」

「我輩の魂が入ってた結晶であります……友人のマークス殿に持っていてもらいたいのであります」

「……ああ大切にする」

「マークス殿……ありがとう」

その日マークスの親友が天国に行った。

短い再会（後書き）

内容ももう少しうまくかけたらいいのに……。

マジ文才欲しいです。

海兵に挨拶！

海軍支部が出来しばらくした後海兵達が住み着きはじめた時の事。

「えーとこの島に住んでいるただ一人の住人エイジ クドウです

今回海軍支部完成おめでとうございますそれでこの島の注意事項があります！

知っている方がいると思いますが世界樹に基本近づかないでください！

それと世界樹の近くの祠には、近づかないでください、そしてけつして壊したりしないで下さい！結界などが張ってますがそこには、負の塊があり見ただけで死にます。

それからこの島には、特有？の生物がいますこの辺りだとヒドラとケロベロスがいます今回は、若いのを連れて来ました。

ヒドラは、臆病ですが猛毒を持つので噛まれ無いようにしてください結成は、…まあ噛まれたら家に連絡すれば助かります。

似ている奴がいますがそれは、毒無しです。

ケロベロスは、毒はありません（本物は有るみたいだけど）

基本この島に住んでいる動物達は、おとなしいですが危害を加えると一丸となって襲ってきます。

なお自分は、動物達の味方ですのでそこは、覚えてください。

それから兵器以外何か欲しい方は、私の家に着てくだされば可能

な限り叶えます但しタダでは、ありませんから。

S i d e ? ? ?

初めまして僕はクロウス・K・レナクル二等兵であります。

今回世界樹島海軍支部に配属されました！

本日住人挨拶でエイジ・クドウさんから島の注意事項を聞かされましたが、凄いです！初めて見ましたあんな動物達！！かわいいです！

この島は、最近建国されてますが、住人がエイジさん一人だけだそうです。

これって国と言えるのだろうか？その事をつつこんだ先輩がいましたが、『中立な場所なので別に国と認められなくても良い』だそうです。

なんでも世界樹を護る為だそうです。

世界樹：この前の大災害の原因、国のトップ達のエゴにより起きた。

あの会議の様子は、魔女の力ユカリで世界中に見られた：その魔女の力に僕は、恐怖を感じた。

その魔女がこの島に居ると聞いた時抗議の声が有ったが、大總統いわく『魔女は、基本眠りについており弟エイジや世界樹に何か無い限り現れない』だそうです。

明日エイジさんが島を案内するので自分も含め十数名参加するそ

うです。

??? (クロウス) Side End

翌日

一部海兵達を島を案内することになったエイジは、事前に島の動物達に連絡してたので大きな問題に成らないだろう。

「あつ神隠しの魔女ユカリ三億五千ベリーか…まあ妥当だな」
流石にこれを無効に出来ないことを判っててやったからな…。

これでマークスさんの前以外は、当分八雲紫に変身出来ないな…
…移動に便利だったのに

「さてと商売品も持って行きますか」

エイジは、道具（商売品）が入った四次元ポケットを腹に付け海軍支部に数匹の竜を連れて向かった

海軍支部前

「…あのエイジさんその竜はそれからその荷物はいつたい？」

「サンプル品に島を案内するためのアッシー（パシリ）君達です！

…まさか徒歩で行くつもりでした？」

「いえ馬で行く予定でした」

「あゝ馬だと崖や対人トラップがあるので却下」

「対人トラップですか!？」

「世界樹対策です」

「青いのが傷薬で緑が解毒剤でこの島の毒だと応急処置程度です、それと黒がヒドラの解毒剤です、これを100本渡しますね」「あの〜料金は？」

「今回は、サンプルでタダです次回は、こちらの雑誌番号を書いて渡して下さい早ければ翌日にお届けします！」

そう言つてエイジは、同じカタログ雑誌を10冊渡した

「判りました上に伝えます」

「よろしくお願いしますね！」

そのあと安全に島を案内したエイジであった。

道中多少トラブルがあつたが無事終了した。

「キシヤ！」「ワウ！」

案内が終わりクロウスはヒドラとケロベロスの子供を連れて戻ってきた。

「オイ！クロウスこの二匹はどうした！」

「懷いてついて来ちゃいました」

「懷いたつて特にそいつには、毒があるだろ！？」

「エイジさんが常時解毒剤持てば問題無いって言つてましたので大丈夫ですし……」

「大丈夫つてよ」

「いや今帰すとヒドラとケロベロスの大群が……」

クロウスは、あっち方向に顔を向けて目が虚になった。

「いや判ったもう言うな」

「うん（エイジさんの言う通りにしたら許可貰たよ！）」

海兵に挨拶！（後書き）

久しぶりに投稿したけど……ストックが無いしネタが……。。

島と賞金（前書き）

グロテスクな表現があります。
ご注意ください。

島と賞金

やあやあみんなエイジ君だよー！

今ねグリフォンからの連絡で船が来て入江にきてるんだ。

一応危ないからリン・リオン（屍姫）に変身している

「海軍からの連絡は無しか…」

やがてこつちに、一人の男がやってきた。

「この島に、何の用おじさん」

男は、エイジを品定めするように見ていた。

「嬢ちゃんおめえこの島の者か？」

「ええそうよ」

「なら話しが速いな、嬢ちゃんユカリちゅう女を呼んで来てくれねえか？」

「ユカリ？誰の事？」

「嬢ちゃん嘘はイケネエな、魔女がこの島にいるのは、解ってるんだよ」

「知らないんだから第一なんであんたの言うことなんで聞かなきゃいけないの？」

「そうかい…じゃあさよならだ」

バン！

男はそう言い持ってた銃をエイジに向かって撃った、しかしエイジに銃弾は、呪い（のろい）の鬼によって届くことはなかった。

「酷いなゝおじさんいきなし人を撃つなんて」

「化け物か！」

男は、何度も撃ったが一つもエイジには届かなかった。

「弾切れかじゃあお返し……『溺れる』」

「ガワ！」

男は、呪いによって現れた水に溺れ気を失った。

海軍前

気を失った賞金稼ぎを連れてエイジがやってきた。

「海軍さんコレあげる」

「コレって」

「賞金稼ぎ……いきなし撃って来たから気をつけてね」

「ハッハイ！」

「一応島の条約違反だから出したら殺すから……島の巡回してるの？」

「あのゝ事情調査するんでお願いします。」

「……判りました」

数時間後…

捕まえた賞金稼ぎは、それなりな賞金が懸けられてたので丸ごと貰った。

最近島に人が来るが増えてきたな…。

ここグランドラインだが…あまり好ましくない者が多いな、動物密猟 国による世界樹強盗 ユカリ目当ての賞金稼ぎがほとんどだ。まあ9割トラップにかかって重傷だから良いけど、この前世界樹強盗したら祠に近づき真っ黒に焼けて即死してたな。

そのお陰で結界にヒビが有ったのが解ったけど…後一日放つといたら”生きたまま自分の腹を裂き内臓を引きずり出してた”ってユウト君の有り難くない御言葉を頂きました。

まあ…みせしめにスキマで国のトップ達に、中継で流したけど（協力 海軍に捕まった死刑囚）

さすがにその遺体は、燃やしユウト君がちゃんと生まれ故郷に供養しました。

入江の反対場所（崖）

「今度は、海賊か……海軍機能してるのか？」

渚カヲルに変身し特殊眼鏡（相手の賞金額表示機能付き）をかけたエイジは、龍に乗り海賊船に向かった。

「1000万ベリーに8500万ベリーか……眠らせて渡すか」

エイジは、スリープに変身し海賊船の船員を全員眠らせてさつさと海軍に引き渡した。

エイジ宅

「最近多いな」

『世界樹が発表されてからですな』

「まあしょうがないか」

『所でこのお金どうします？』

「どうしようか？この7億ベリー」

島に來た不届き者を狩りに狩った結果貯まったお金……。

「10億になったら寄付するか」

『エイジさんのお金ですから……』

結局10億ベリー貯まるのは、そんなに時間が係ることは無かった。

島と賞金（後書き）

こっちにもキャラクター説明必要か考え中……。
その場合本編と混合になります。

七武海の招待（前書き）

七武海の説明は、`Wikipedia`を参照しました。

七武海の招待

朝エイジは、海兵にお土産に頼まれた物を制作中の事

ピンポーン！

「ハ―イ！どなたですか？」

「朝早くにすみません！リクセル中尉であります！」

「リクセルさん？どうぞ開いてますよ？」

エイジは、作業を中断しリクセルを招き入れた。

「失礼します！」

「どうしました？お土産のエバーフラワーの期限まだ先のはずですか？」

「今回の件は、違います」

「では？なんの用件ですか？」

「今回は、ユカリ殿にお会いしたいのですが可能でしょうか？」

「姉さんに？（何のようだ）…難しいですね」

「弟のエイジさんならなんらかの連絡方法は、無いでしょうか？」

「基本姉は、スキマの中で暮らしてますから滅多にこちらに現れる事は、無いですから連絡手段だとしたらユウト様ですが…今は、祠の結界の修復のため忙しく…」

「そうですか……」

「姉にどのような要件なんです？」

「大佐や総統からエイジさんなら伝えて良いと言われているのでいいです」

「ユカリ殿を七武海に入るようにとの事です」

「……七武海ってなんですか？（ど忘れ）」

「えーと世界政府によって公認された7人の大海賊で海軍本部、偉大なる航路大勢力の一角です」
グランドライン

「……（海賊では、ないんだが）」

「未開の地及び対海賊限定の略奪行為が特別に許される「敵船拿捕許可状」を所持しており、その収穫の何割かを世界政府に納付することが義務づけられています。」

「七武海に加盟した海賊は政府からの指名手配を取り下げられ、それまでの懸賞金も抹消されます」

「ユカリさんには、関係ありませんが…、加盟前に捕縛・投獄されていた配下の海賊も、恩赦で釈放されるなどの特権が与えられ、メンバーの選定基準には強さだけではなく他の海賊に対する抑止力・影響力も重要視されます」

「……………」

「海賊でありながら政府に与する立場であるため、その他の海賊には「政府の狗」と揶揄されることもあります、その顔ぶれには名実共に世界最高峰の大海賊が名を連ねてます」

「ところでなんで7人なんですか？」

「政府は勢力のバランス上7人が妥当な数としているため、何らかの理由で欠員が生じた場合、新たに認められた海賊が後継の七武海となります」

「では今回は、その七武海の一人が欠員出たわけですね？」

「まあそうなんです」

「姉は、海賊では、ありませんから七武海には、当て嵌まらないはずですが？」

「そうなんです世界政府からみたら変わらないです」

「それに姉が好き勝手になると……」

「なりますと？」

「姉のペット達が大暴れますよ？」

「ペット達って…あのバトラの他にもいるんですか!？」

リクセルは、バトラ以外の怪物の存在をしり顔から血の気が引いた。

「えーと簡単に言いますと生きた環境破壊兵器 放射能の大火災を
はく恐竜 負の塊の巨大九尾の狐（白面の者） 火を吐く空飛ぶ巨
大亀 生きた人喰い霧 強力な光線を放つ八面体（劇場序版使徒ラ
ミエル）などなど」

「聞くと凄く危険ですね…それら」

「ペットといってもぶっちゃけ姉が監視してる怪物達ですから…生きた環境破壊兵器なんて、上空を通るだけで人間を白骨死体が出ます」

「エイジ殿は、見たんですか!」

「ええスキマ経由で豚でしたが……その事を含めて伝えてくれませんか？」

「でもペットなら」

「姉の言うことを聞く怪物は、バトラと光線を放つ八面体のラミエルなど数匹だけです」

「生きた人食い霧のシユナムなんて出すと捕まえるのが大変なんですよ！基本は霧だから出すとなかなか捕まえられない」

「それどうやって捕まえたんですか！？」

「ペットの『なんでも吸引する』のづちを使い掃除機感覚で捕まえました」

「そのまま吸い込んでしまえばよかったのでわ？」

「下手したらノヅチが溶かされる可能性がありましたから現にノヅチの口が少し溶かされましたから（嘘）」

「そんな化け物をどうすれば倒せるんですか！？」

「天然の風穴があれば……倒せませんが居なくなることが出来ます」

「風穴？」

「天然あの世行きのブラックホールです」

リクセルにペットの事を上に言うようお願いし改めて誘うか考えておくように頼んだ。

まあ断るけどね！

ユウト君の力を使えば違う時間帯の俺を呼び出す事が可能だ……つまり俺とユカリが同時にイル事が出来る。

次来たらユカリで断ろう……。

ハッキリ言ってこちらのメリットは、ゼロだ。

懸賞金取り消しは、魅力的だが変身しなければ関係ない
それに俺は、許可無くこの島から後80年弱出ることは、出来ない。

許可無く出たら強制的に戻される

まあ基本引きこもりだから関係ないけどねー！

IF 狂った世界でサヨウナラ（前書き）

この話は、鬱？でバットエンドです

本編（番外編）とは物語的には関係ありません

時期的にルフィがグランドラインに入った辺りです。

IF 狂った世界でサヨウナラ

何時からこんな事に、なったんだろう？

『エイジさん今日でこの世界からです』

「わかったユウト」

「エイジ帰るの？」

エイジの服にしがみついた少女は、不安そうに聞いた
「そうだよ」 ” 今日でサヨウナラ”

その答えに少女は、悲しそうな顔をしてた…
さて最後に適当に国を潰そう

事の始まりは、天竜人が面白い半分で”まだ幼い守り人”を殺した
事から起きた。

その時俺は、海軍に呼ばれ本部にいた。

ユウトからの連絡を受け急いで戻ったが…手遅れだった。

それを見ていた世界樹は、負の吸収が極端に減った。

自分が生きていく最低限の量しか吸収しない” ” が生まれた
後だったのは、不幸中の幸いだった。

だが怒り狂ったユウトの暴走は、止められなかった。

ユウトは、あの子を殺したソレに呪いをかけた『不死と意識正常と
激痛』の呪いを、『簡単に殺して終わらせるなんて優しいと思うな』
と残酷な言葉をはきながら

ユウトの暴走を止めようとした俺は、意識の殆どを封印されユウトの操り人形になった。

次にソレがいた国を島ごと消した。

生き物全て溶かし建物を太陽で焼き星の断罪で島をけした。

その事がきっかけにバスターコールが発動し島を消そうとしたが…

……誰も上陸することは、無かった。

ユウトの力で怪獣や巨大妖怪に同時多数に変身した俺がいたから…。

そのままいくつもの島や国を消した。

ペスト コレラ ノロ エイズなどこの世界には、無い病原菌を撒き散らし、ある女の子に変身し雛見沢症候群を蔓延させた。

火の国では、G・ウイルスを蔓延させゾンビの国が出来たがその内消えるだろう

魚人の国にはオキシデンドストロイヤーをばらまき赤潮や青潮を起こした

空は、ファイヤーラドン スペースゴシラ キングギドラ等で制圧した。

その時神と名乗る耳たぶが異常な男が居たがユウトの放った一発でやられた。

ある国では、歌を歌い人々を狂わせて滅ぼした。

海賊同盟なんかが出来たが海軍と同じ結末になった。

この星を滅ばせば終わりだが、世界樹が生きてる限り行わない。

だって俺がやってるのは、人が多いから減らしてるだけ、新しい種が芽を出すまで育つには、こんなに人は必要ない

種は、ユウトに気づかれないよう東の静かな無人島に埋めた……あそこで順調に育てばいいな

『まだ意識が残ってましたかエイジ（人形）さん』

「ユウト君モウやめよう……（あーあバレたか）」

『エイジ（人形）は、黙って僕の言うことを聞けばいいんだよ！』

もう俺も消されるな……聞こえたかいシラヌイ……君の好きだった彼の一部は、もういなくなっただよだから消して。

『もう消えて下さい』

ミンナニ アイタカツ……………

IF 狂った世界でサヨウナラ（後書き）

その後や大まかな説明

ユウト（分霊）

エイジの意志を消した後シラヌイと本体によって消滅した。
このユウト（分霊）は、精神面など本体よりかなり弱い。

エイジ
栄治

僅かだが正気の部分が残ってたが、シラヌイ達が来た時には、もう植物人間になっていた。

シラヌイの能力でも修復は、不可能のため

不老不死を解かれた状態で、元の世界（ポケモンの世界）に戻され
エイジが作った二人（序盤に登場）に介護されながら生きていた。

しかし数年後一気に老化し老衰した。

操られる前にいろいろと暗躍したらしい

” ”

世界樹が産んだ二人目の守り人

しかし世界樹が育児放棄？したため通常の守り人より加護が、少な
くほぼ普通の人間と変わらない。

現在エイジ2と一緒に、東の無人島で暮らしてる

エイジ2

栄治がもしもの為に、変身し分裂したもう一人のエイジ

栄治から腕輪 世界樹の種 今まで作った道具が入った四次元ポケットを渡され東の無人島に” と一緒に暮らしてる

世界樹の種

” と最初の守り人が産まれた時に実った。
栄治がユウト（分霊）に、バレないように盗みエイジ2に渡した。

ユウト（本体）

今回の事で見習い神様を多くの反対を押し切り辞めて、違う世界で人間として暮らしてる。

ONE PIECEの世界

一部の島を残しほぼ全滅状態

イーストブルーは、エイジ2が居た島以外もう人は存在しない

他の海（グランドラインも含む）も似たような状態

栄治が住んでいた島に居た動物達は、エイジ2により違う島に匿っていた。

世界樹

種が育ち30年後エイジ2と” によって伐り倒された。

それからそれから（前書き）

久しぶりに投稿

物語的にとばしてますいつかちゃんと書きたいです。

それからそれから

やあやあみんなエイジ君だよ！

この前の七武海の話あれやつぱ断ったよ

まあ向こうも断らせないよう俺を人質にしようとしたが…。

もちろん全員返り討ちにしたよ

いやー楽に酸欠（溺死寸前）にしたからね

まあ後日ユカリの海軍＋国の御偉いさん達に一日素敵で愉快的な超鬼畜スキマツアーを観光しましたよ。

え？ツアー内容？

極寒の島の川下りと地元名湯温泉でゆっくり 次に灼熱島の火山マグマの上空ダイビング（数名火傷）狙え！ラミエルの拡散荷加粒子砲（ターゲット海賊）×に『上空無制限スキマ落とし君が泣いてもやめない』をしただげど？

「さてと注文の品を渡しに行きますか」

海軍支部前

「はろー」

「えっエイジ殿！？」

前回の一件によりフルボコにされた見張りAは、エイジの姿を見て

今にも失禁しそうであつた

「そんなに緊張しないの！基本俺は何もしない限り何もしないからだからその後治療したでしょ？」

「はぁ・・・」

「今回は注文の品を届けに着ただけ…で？新しい依頼は？」

「はい！あります」

「えーと上海人形 フランちゃんのうふふ人形 エバーローズ 改造水筒？あれこの前100個納付したよね？」

「人気が高くてすぐにほかの支部に行ってしまったんです」

「まあ水は必要だしね多めに作るよ後は…あゝケロ達のグルメンか二匹元氣？」

「ハイ相変わらず彼にべったりですよ」

「なら良いけど何かあったら大変だからな…一応彼まだ解毒剤持つてるよね？あとは…」

エイジと見張りAが注文品の確認をしていると誰かが後から話し掛けてきた。

「それと海軍の訓練に付き合ってくれないか？」

「たつ大佐！？いつのまに」

「最初っから居ましたよ？（気配消してたが）おはようございます
ケーニス大佐」

ケーニス大佐この支部のトップの一人である

「おはようエイジくん」

「も〜くんって これでも50歳越えてるんですから
35でここに来て16年経ってますからね〜」

「「とっ年上!?!」」

「まあ見えませんよね24歳の姿のままですから…まあ体質です
から」

「ちなみにユカリさんは」

「ああ姉さんですか?もう立派な歳ですよ」

「そうなんですか……………（ガク）」

ユカリの年齢をしり落胆する見張りA

「「（狙っていたんだ）」」

エイジとケーニスは、見張りAを無視し話を始めた。

「で?訓練って何すれば良いのですか?」

「うむエイジくんは、マネマネの実の能力者だったな」

「架空の人型限定（嘘）ですが前回のようにな員溺れさせれば良い
ですか?」

「いや前回のはアレはいい」

「モデルは仙人になりそになったキヨンシーです」

「仙人?キヨンシー?」

「（そっかーこの世界じゃわからないか）仙人は、修行で霞だけで

百年以上生きていける人間でキョンシーは、ちゃんと埋葬されなかった動く死体^{ゾンビ}です」

「…訓練の事だが」

「なにがいいですか？」

「格闘系で集団でできるかの？」

「多数で出来ますよ？」

「じゃあそれで」

「解りました日にちが決まり次第お願いします」

「ちなみに集団相手の場合は、どうするかい？」

「殺す前提だと豊富ですね…逆に無傷にだと大分限定されますね」

「無傷か…例えば？」

「睡眠と前回みたいに気絶ぐらいかな？石化は戻せるけど無傷のままは難しいな」

その後訓練にたいする話は食事を挟みながら続き夕方頃に終わった

翌日

エイジは、朝食後ゆっくり新聞を読もうとした時あるモノが新聞から落ちた。

「これは……………」

樹木人 エイジ 懸賞金3200万ベリー
魔女 ユカリ懸賞金10億2000万ベリー

「……………マーカスに聞くか」

海軍本部 マーカス総統部屋

ユカリの姿現れたエイジは、殺気を出しながらマーカスの前に座っていた。

「これはどういう事かしら？マーカス海軍総統？」

「…すまぬこちらのミスだ」

「別に私の懸賞金上がるのは、しょうがないわ覚悟の上にやったのだから……でもねエイジは、あくまで被害者よ？ 七武海の件で武力で人質にしようとしたのはそちら」

「すぐに訂正を送る」

「海軍の誠意を期待するわ…でないとペット達が暴れちゃうから（さっさとやらねえと国一つ潰すぞゴラァ！）」

要件を伝え海軍を脅したエイジは、そのままスキマに入り家に帰っていた。

「全くエイジくんを指名手配するなど火薬庫でタバコをすってるもんだぞ」

消えたユカリを見て冷や汗をかいたマークスであつた……

「さて取り消しを行うかの……めんどいが」

数日後エイジの指名手配は、白紙に戻されユカリの懸賞金が11億8000万ベリーに修正された。

それからそれから（後書き）

ラストの懸賞金は、ユカリ（エイジ）に白紙の代わりに七武海に入れと言ってきたので島を怪獣で4個ほど消して脅しました結果です。

リアル多忙（リアル引越など）がマジでおきるので本編含めて当分投稿は、無理です（ちよくちよく書いてます）が次回をお楽しみに。（落ち着いたらこの文消します）

後5話ぐらいしたら時間かなり進める予定

前にキャラ説明を載せるか考えましたが辞めました。

制作中のIF消そうか考え中

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3236o/>

何でメタモン？番外トリップ

2011年11月29日22時47分発行